



2024(令和6)年度 事業計画

社会福祉法人 善興会 

新年度いよいよ、我が国では大きな課題となっていた“2025年”を迎えます。これまで支える側だった団塊の世代が皆、75歳以上の後期高齢者となり“支えられる側”へ。国民の5人に1人が75歳以上、また3人に1人が65歳以上となり、あらゆる産業で人材不足が深刻化していきます。2040年以降は、高齢者自体の数も減少すると推測されています。

法人開設から55年が過ぎた善興会は、いわば福祉の老舗。求められているのは、私たちの願いである地域の人々の「安心と笑顔」のため、2040年以降を見据えた“福祉新時代”を切り拓いていくことです。

このため2024年度は、

1. “福祉新時代”を見据えた中期計画の策定
2. DX(デジタルトランスフォーメーション)化でICTをフル活用
3. 多様な人材確保、ケアの質向上のため福祉のプロ育成

以上を重点目標として取り組んでいきます。

年齢を重ねたり障がいを背負っても、安心して住み続けられる地域を創るため、新規事業の展開やリノベーションなど先を見据えた計画を策定します。

2023年度末に発足したDX推進チーム(GOGO!DX)を中心に、見守り機器を活用しながら、ゲスト(入所する高齢者)にとっては安定して安心できる介護が提供され、また職員にとっては負担軽減を図る一方で「人の手で行う温もりある介護」を追求してもらいます。

働き方改革を行うとともに個々の能力を伸ばせる職場づくり、福祉・医療資格取得の推奨や研修、Zoom、Chatwork、LINE WORKSなどを用いた組織内での同職種の意見交換・勉強会の実施によるケアの資質向上、また新たな人事制度の検討を行います。

もちろん不適切行為や虐待、ハラスメントがあってはなりません。

ノーマライゼーションの理念に基づき、年齢や障がいの有無に関わらず、ゲストも職員も、その人らしく今の時代を生き、楽しく夢が描ける場所を創っていきます。

(1)理事会のスケジュール(予定)

5月	審議事項:事業報告、決算、監査報告、社会福祉充実計画ほか
12月	審議事項:補正予算、中間事業報告ほか
3月	審議事項:事業計画、予算 (この他、必要に応じて開催)

(2) 定時評議員会のスケジュール(予定)

6月	審議事項:理事及び監事の選任、理事及び監事等の報酬基準、決算、事業報告、社会福祉充実計画 (上記のほか、必要に応じて開催)
----	--

(3) 中長期計画の策定(予定)

9月	中期計画(案)
12月	長期計画(案)
3月	中長期計画の策定

(4) 法人本部の体制づくり

善興会本部跡地での新規事業について
善興園デイサービスセンターの運営再編
第三善興園リノベーション、外回りの景観整備(予定)

5月	リノベーション工事開始
9月	リノベーション完成、室内カーテンの取り替え(一部)
11月	外回りの景観整備

(5) 新人事制度について

新たな評価制度づくり
副施設長の育成・制度の見直しやデスク設置

(6) 周知について

HP やパンフレットの修正、増刷

(7) 研修会&イベント(予定)

7月	音楽 LIVE(花の王善興園)
8月	ハラスメント研修会
11月	福祉講演会(デンマークに学ぶ)

I 高齢者福祉(北九州市)

【特別養護老人ホーム 花の王善興園】

【特別養護老人ホーム 第三善興園】

1,基本方針

特別養護老人ホーム(介護老人福祉施設)は、自宅で生活が困難となり、介護が必要となった高齢者が昼夜生活する施設です。私たちは、入所する高齢者＝ゲストたちが、安心して暮らしていける住まいとして位置付け、まずは“快適で心地良い空間”を提供します。医療機関や住民と連携し地域で暮らす一員として尊厳を保ち、ケアの質の向上を目指します。同時に法人全体の働き方改革の下で、職員が意欲を持って仕事ができる環境づくりに取り組みます。

2023年度末には両施設ともにDX化が進展し、全館 Wi-Fi が完了しました。最新のセンサーとカメラ、iPad や iPhone などの活用で、ゲストへの対応迅速化で夜間を中心とした見守りを強化するとともに、これからは記録も充実させ、職員の負担軽減を図ります。さらに2024年度「処遇改善加算」の制度が一本化され施設独自の支給が可能になるため、専門性を持って意欲的に取り組む職員が、より評価されるよう努めていきます。

感染症については、新型コロナでの経験を分析し、事業所全体の今後の対策に繋がります。また度重なる災害についても、北九州市で発生した際にゲストの安全はもちろん、地域に貢献できる訓練を実施するなど住民との連携強化を図ります。

2,計画事項

(1) 運営管理

- ① PR活動を強化、高い稼働率を目指します。
- ② 人材育成、職場環境の改善、評価や処遇の見直しで、より働きやすい職場づくりを行い、職員の定着を図ります。
- ③ コスト管理を徹底して行き、経費の削減に努めます。
(第三善興園 ZEB 実証事業の実績把握と見直し)
- ④ 万が一災害が発生した際の影響を最小限に抑えるため、具体的なシミュレーションを行い、特に停電時の対応を考えて訓練を実施していきます。
- ⑤ 導入から10年以上を経過した古い施設車両を中心に、必要性の優先順位をつけて新規購入を検討します。
- ⑥ 2023年度末に導入した介護ロボット(aams)の活用で見守りを充実させケアの質の向上や介護スタッフの業務効率化を図ります。

(2) 健康管理(介護・看護・栄養)

- ① 平常時からの感染症予防、拡大防止への適切な対応を図ります。
- ② 本人の意向を尊重した生活を提供するため、カンファレンスを通して医師や家族と緊密な連携を図りながら、ターミナルケアに繋がります。
- ③ 自分の口で美味しく食べ、誤嚥性肺炎を予防するため、歯科医師らの援助を受け、口腔衛生管理の充実を図ります。
また、栄養管理を含めた褥瘡予防に努めます。

(3) 教育研修

- ① 感染症についての継続的研修を行います。
- ② “認知症の人との共生“の考えのもと、尊厳を持ったケアを行えるように認知症研修をすすめ、対応力の向上を図ります。
- ③ 事故防止・感染症対策、身体拘束廃止、虐待防止、苦情対応、褥瘡対策に対する職員研修を、施設間で共同して継続します。

(4) 安全管理

- ① 車両運行にあたり始業・定期点検を確実に実施し、乗降時の安全確保など、運行中は細心の注意を心がけます。
- ② 業務継続計画に基づいた、火災・地震・風水害に対し総合的な防災避難訓練を実施します。
- ③ 事務所・玄関ホールのリノベーションを実施し、セキュリティ強化や職場環境改善を図ります。外部のサインや入口周辺の景観を整備します。(第三)

(5) 短期入所生活介護(ショートステイ)

① 花の王善興園

- a. 介護ロボット(ICT)導入に伴い利用時における安全を確保しつつ、生活機能を中心として個別ケアに努め、在宅での機能維持を図ります。
- b. 新規登録者の拡大とリピーターの確保に努めます。
- c. 家族、担当ケアマネジャー、関係機関との連携を強化します。

② 第三善興園

- a. 感染症対策を継続し、安定した利用者数確保を目指します。
- b. ショート担当ケアマネジャーによる、居宅ケアマネジャーや医療との連携により、利用者・家族のニーズに柔軟に対応します。
- c. やむを得ない事情による長期利用者の在宅での生活復帰を支援し、必要に応じて入所へのスムーズな移行を図ります。
- d. 見守り機器(aams)を導入し、介護業務の効率化・介護サービスの質の向上を図ります。

【善興園デイサービスセンター】

1. 基本方針

前田町・祇園町エリアは、住宅が増え皿倉テラスなど新たな商業施設も誕生するなど街が変わりつつあります。街の変化に伴い、地域に住むシニアのニーズを捉え、デイサービスを利用される方の生活スタイルや人生観を尊重し、可能な限り自立した生活を送れるようサポートします。住み慣れた地域で、在宅での生活が継続されるよう個々の必要な機能訓練も行い、ひとりでも多くの方が笑顔で過ごされるデイサービスを目指します。

2. 計画事項

(1) アクティビティの開発・提供

- ① 行事内容がマンネリ化しないよう内容を検討、利用者のニーズをしっかりと受け止め、参加したいと思ってもらえる行事を増やしていきます。
- ② 毎週水曜日の神原クリニック理学療法士によるリハビリで、在宅生活に必要な筋力の低下維持や防止に繋がる事を理解してもらいます、理学療法士との会話やリハビリで、外に出てみようという意欲を掻き立てます。
- ③ 感染症の影響で、数年、外食や会食会などの行事は中止していたものの外出・ドライブなどで季節を感じ、気分転換してもらいます。

(2) 職員の介護知識の習得・技術の向上

施設内での研修会を定期的に行い、受け入れ体勢を整えていきます。
また、外部研修にも積極的に参加し、技術・知識向上につなげていきます。

(3) 新規利用者確保

新規利用者数と入所・入院などの利用中止者数がほぼ同数となっているため、居宅事業所や老人クラブなどを丁寧に戻り、デイサービスセンターのPRに努めます。1人でも多くの新規利用者を確保していきます。

(4) 感染症防止対策

利用者・職員ともに、検温・手指消毒・マスク着用を継続して徹底します。
利用者に症状が出ている際は、ご家族・担当ケアマネジャーに連絡し、利用中止・病院受診をすすめます。

フロア・トイレ・手すりなどの消毒など、事業所内の清潔を保ちます。

【善興会ケアプランセンター・ゴクラク】

1. 基本方針

「人生の最期を迎える場所として自宅を選ぶ人は約6割」というアンケート結果があります(2021年/日本財団)。私たち居宅介護支援事業所は、当事者本人や家族の気持ちに寄り添いながら、住み慣れた自宅で可能な限り暮らし続けるため、地域の医療・健康・福祉・行政関係者などと協働でサポートします。

永犬丸地区を中心に“まちの拠り所”として、多様化する生活課題に対し“親切・丁寧・的確”な対応を行うことを重点に、私たちケアマネジャーが連携して地域資源を掘り起こし、スキルアップに努めます。またソーシャルワーカー集団として、次代を担う実習生(社会福祉士、ケアマネジャー)を積極的に受け入れると共に、若い人たちも親の介護などについて気軽に相談に立ち寄れるような雰囲気づくりを整え、地域住民から一層頼りにされるセンターを目指します。

2. 計画事項

(1) 地域連携や研修について

- ① 地域包括支援センターや職能団体などが主催する研修企画委員会や研修に参加し、介護保険などの最新の情報を事業所内で共有します。
- ② 地域の居宅介護支援事業所や地域包括支援センター八幡西2との定期的研修企画委員会・事例検討会を開催し、ケアマネジメント向上に向けた情報収集を行い、支援方法の質を高めます。
- ③ 職員はケアマネジャーであるとともに、ソーシャルワーカーとして社会福祉士のキャリアアップを図ります。実習指導者を増やすためさらに1人が福岡県社会福祉士会に入会、指導者育成の講習会に参加します。

(2) 実習生の受け入れ

福岡県介護支援専門員(ケアマネジャー)実務研修実習生や、社会福祉士を養成する大学・専門学校からの実習生を積極的に受け入れ、後進を指導・育成します。⇒【法人内や地域の各施設と連携】

(3) 地域を支える体制強化

- ① 新たに1人以上のケアマネジャーを採用し、地域住民の相談窓口として幅広い対応を、迅速に行える体制づくりを行います。
- ② 多様な働き方を模索し、毎月の在宅ワーク導入します。(記録整理)
- ③ 2024年度介護保険の改定で、ケアマネ1人あたりの担当上限が変わり39件⇒44件へ。これに応じた処遇について検討していきます。
- ④ ChatWorkの活用で、連携で効率のいい職員間の情報交換を行います。

(4) 利用者確保による事業所収入の改善・安定化

- ① 一人一人のケアマネジャーが、より多くの利用者と接触できるように日々の対応や関係機関への周知を意識し、業務を遂行します。
- ② インスタグラムや facebook など SNS の活用で、事業所を PR します。
- ③ ケアプラン件数の維持・拡大に向け、平均 143 件の実績(2024年2月時点)→平均 160 件まで増やせるよう、活動を強化していきます。

(5) 北九州市へ介護予防支援事業所指定申請

2024 年 4 月から、居宅介護支援事業所も“介護予防支援事業所”として指定を受ける事が可能となりました。私たちも指定申請を行い、これまで以上に要支援のシニアをサポートしていきます。

(6) 親しみやすい名称を検討

翌2025年には、予定事業所指定更新があります。

これに併せて、“ケアプランセンター・ゴクラク”の名称を、より地域住民に馴染みやすい名称とするため検討していきます。

II 障がい福祉(宮崎・日南市)

【障害者支援施設 北郷荘】

【グループホーム 杉の湯荘】

【相談サポートセンター 北郷の里】

1. 基本方針

2024年度障害福祉サービス等報酬改定では、障害のある人たちが地域で生活できるよう、希望する多様な生活実現のためのサポート体制づくりが一層求められています。一方で、一人暮らしが困難な人が存在するのも現実です。

北郷荘では、障がいのある人もない人も互いに支え合い、自分らしく生き生きと暮らしていける“ノーマライゼーション”の理念に基づき、日南市の居住者を中心に施設での支援を必要としている人たちを幅広くサポートできる「地域のセーフティネット」として、命や暮らしを全力で支える存在を目指しています。相談やケアの質の向上、提供体制の整備、意思決定支援の推進など、障がいのある人たちが自立した生活を送るためのエンパワメント（その人が持っている本来の力や可能性を引き出す）を促進していきます。

2. 計画事項

(1) 障害者支援施設 北郷荘

- ① 施設を必要とする人たちの掘り起こし、収支の改善
- ② セーフティネット機能の強化（ショートステイ含む）
- ③ 利用者の尊厳保持と虐待防止
- ④ 統合失調症、自閉症スペクトラムなどの発達障害、強度行動障害、高次脳機能障害、難病などの関連疾病に関する研修の企画や受講
- ⑤ 感染症や自然災害への対応、訓練（シミュレーション）の実施
危機管理や職員間への声掛けのためリスクコミュニケーターの任命
- ⑥ 宮崎県及び日南市における各委員会・協議会などへの積極的な参画
- ⑦ 障害者雇用制度の利用などによる障害者の就労移行・定着支援
- ⑧ 業務の効率化や職員間での情報共有、LINE WORKS の活用
- ⑨ 実習生の受け入れ、広報活動（OB・OG 訪問含む）
- ⑩ 精神保健福祉士、喀痰吸引等研修、福祉有償運送講習会など資格取得
- ⑪ 高圧引込設備更新、電動ベッドの改修・購入など施設整備

(2) グループホーム 杉の湯荘

- ① 利用者の高齢・重度化に伴う、身体合併症の出現や身体機能低下等への対応
疾病の早期発見、早期治療を行い、重症化しないよう家族や協力
医療機関などとの協力体制を構築します。また支援方法を考案し、
個別対応を強化します。
- ② 日中活動先の関係機関との連携と地域交流
日中サービスや就労の安定・継続に向けての支援及び助言、状況を
把握します。また就労先、地域行事や地域資源の情報を集め、利用者
に提供し、地域交流と社会参加を進めます。
- ③ 住空間と生活環境の整備
癒しやゆとりのある居住空間づくりと、館内設備（手摺や浴室など）を
高齢化に対応できるよう改修、改善をします。

(3) 相談サポートセンター 北郷の里

- ① 相談支援専門員を増やし、センターの体制を維持します。
- ② 相談支援体制の整備
 - a. 日南市地域自立支援協議会における各部会との、緊密な連携強化と
横断的なネットワークの構築を図ります。
 - b. 支援困難・緊急を要するケースへ積極的に介入します。
 - c. 新規利用希望者の相談に、迅速に対応しサービスにつなげます。
 - d. 障害者の高齢化に伴う制度変更（介護保険）への手続きなど、ゲスト
ひとりひとりに合わせた支援と、関係機関との連携を図ります。
- ③ 外部研修への参加などで、利用者の医療的ケア・行動障害（暴力や犯罪
など）・高齢化に伴う専門職としての知識や技量の向上に取り組みます。
- ④ 障害児相談支援事業に関する利用者の確保
障害児は、10人程度の新規相談者を受け入れます。
また、行政や関係事業所、支援学校などと緊密な連携を図り、障害を
持つお子さんとその家族に対する支援に取り組みます。